



岩手県教育研究所連盟事務局
岩手県立総合教育センター
〒025-0395 花巻市北湯口 2-82-1
令和7年12月22日発行 第26号
<https://www1.iwate-ed.jp/15kenkyouren/index.html>



県教連の皆様とともに

岩手県教育研究所連盟 会長 佐々木 寛

(岩手県立総合教育センター所長)

師走の候、岩手県教育研究所連盟の皆様におかれましては、本年度の事業推進に御尽力いただきしておりますことに心から感謝申し上げます。

県教育研究所連盟は、昭和33年に発足した歴史ある連盟であり、これまで県内各地の教育研究機関が連携を密にし、教育に関する調査・研究を充実させ、本県教育の推進、向上に寄与することを目的として活動して参りました。

本年9月の研修会では、一般社団法人今井むつみ教育研究所所長の今井むつみ先生を講師としてお招きし、「児童生徒が『生きた知識』を得るためにの教育～子どもの思考と学びのプロセスの科学的根拠に則ったカリキュラムと授業づくり～」と題して、子どもたちが「生きた知識」を獲得するために、私たち教師がどのように授業を構成し、概念の理解を支援していくべきかについて、認知科学・発達科学の視点からの、非常に示唆に富んだお話をいただきました。

来年2月に開催される岩手県教育研究発表会では、各教育研究所市町村教委から多くの発表があります。本年度も、昨年度と同様のかたちで、令和8年2月4日（水）、5日（木）、6日（金）の三日間にわたり、集合型及びライブ型での開催となります。また、その模様は、2月12日（木）から3

月5日(木)にかけて、オンデマンド配信でも御覧いただけます。加盟機関の皆様の御参加をお待ちしております。県内各所からの特色ある取組の発表が、本県教育の充実と発展に繋がりますことを期待しております。

子どもたちに「死んだ知識」を教え込むことを目的に教師になった方はいないと思います。しかし、評価の客観性や受験への対応等からか、「死んだ知識」の蓄積が中心となつた授業等をつくってしまっていた面があつたと反省しています。研修会で今井先生のお話を聞きして、改めて、岩手の教師が眞に目指しているのは、子どもたちが学びの本質を経験し、子どもたちに、「学びは遊びだ」と呼べるほどの楽しい時間と空間を提供することではないかと思いました。子どもたち一人一人がこれから社会を生き抜き、よりよくしていくために必要な資質・能力を確実の育んでいくためにも、教育の専門機関としての当連盟各研究所の役割はさらに重要になってくるものと存じます。これからも、研究所相互のますますの連携を図りながら、岩手の教育の推進、向上のために、ともに力を尽くして参りましょう。よろしくお願ひいたします。

■ 令和7年度定期総会・研究協議会の報告 ■

令和7年5月20日（火）、岩手県教育研究所連盟定期総会並びに研究協議会を開催しました。総会では、令和6年度事業・決算報告、令和7年度役員、事業計画、予算案が承認されました。令和7年度の役員は、右記のとおりです。協議会では「一人一台端末時代の『わかる』と『できる』を結ぶ授業づくり」と「学力調査の結果を活かした『考える力』を育てる授業改善」をテーマに意見交換を実施。ICT活用と授業観の見直しが学びの質向上に不可欠であること、思考力育成には表現の場と評価の工夫が必要であることが確認され、学力調査分析を授業改善に結びつける姿勢が共有されました。

| | | | | | |
|------|---------|-----------|------------|------------|--------------|
| 会理長事 | 木林野藤田美橋 | 佐々木小菅佐吉侘高 | 寛満弘生伸淳明和幹雅 | 教育センター企画担当 | 所長所長所長所長研修部長 |
| | 教育向 | 合 | 介史雄成昭 | 主任研修指導主事 | |
| | 部 | 教 | 尚勝将佳 | 主任研修指導主事 | |
| | 原 | 育 | 藤田原 | 主任研修指導主事 | |
| 事務局 | 福 | 菅加 | 阿福菅加 | 研修指導主事 | |

■ 令和7年度東北・北海道地区教育センター協議会 ■ ■ 令和7年度東北地区教育研究所連盟総会・教育研究発表大会 ■

令和7年10月16日(木)～10月17日(金)、秋田拠点センターALVEを会場として、全国教育研究所連盟事務局長並びに秋田県教育委員会教育長を御来賓にお迎えし、開催されました。本協議会では、「管理運営協議会」「研究研修事業協議会」及び「共通研究主題による研修会」が行われました。共通研究主題による研修会では、学習指導、生徒指導、情報教育の三つの分野に関する話題提供があり、活発な協議が行われました。また、併せて開催された東北地区教育研究所連盟教育研究発表大会では、岩手県立総合教育センターから2件の研究発表がありました。教科外部会では、米沢友夏研修指導主事が「高等学校における校内支援体制の充実に関する研究—特別な支援を必要とする生徒を含む集団への多層的な支援を通して—」と題して発表を行い、情報教育部会では、芦澤信吾研修指導主事が「生成AIを活用した校務の効率化に関する研究」と題して発表を行いました。両会合には、加盟の7道県、4市から71名が参加し、充実した研究協議の場となりました。

【 管理運営協議会・研究研修協議会協議題 】(本県提案分)

- 管理運営 ○ 生成AIの利活用に係る教育センターの取組について
- 研究研修事業 ○ 研修観の転換に係る「探究型」の研修の充実について

【 共通研究主題 】

- 学習指導 ○ 主体的・対話的で深い学びを促す授業改善に向けた取組 (宮城県)
- 生徒指導 ○ ウェルビーイングな学校生活につながる若手教師と児童生徒とのよりよい関係づくりのために～「先輩教師の技とコツブック」の作成と活用を通して～ (秋田県)
- 情報教育 ○ 教育DXを推進する伴走型支援のあり方について (山形県)

【 教育研究発表テーマ 】

- 教科 ○ 生徒一人一人の学びを支える高校教育プロジェクト (青森県)
 - 学力調査へのデータ科学の活用と効果的な授業改善の在り方
—研究協力校における実践的研究を通して— (福島県)
- 教科外 ○ 不登校児童生徒への支援～「こころの教育相談センター」の運営を通して～ (青森県)
 - 高等学校における校内支援体制の充実に関する研究
—特別な支援を必要とする生徒を含む集団への多層的な支援を通して— (岩手県)
- 情報教育 ○ 生成AIを活用した校務の効率化に関する研究 (岩手県)
 - 福島県における教育の情報化の推進に向けた取組について (福島県)

■ 令和7年度全国教育研究所連盟研究協議会 ■

令和7年10月30日(木)～31日(金)、長野県総合教育センターの主管により、松本市にて開催されました。はじめに、長野県総合教育センターより「探究的な学びを支える教育センターの在り方」と題した基調提案が行われました。続いて、軽井沢風越学園校長 岩瀬 直樹 先生をお招きし、「探究的な学びを支えるために大切なこと」と題する基調講演が行われました。その後、二つの分科会に分かれて、計4件の提言発表及びグループ協議が実施されました。本県からは、総合教育センターの所員4名が参加しました。

【 提言発表・グループ協議テーマ 】

- 分科会A
 - 省察力を高め主体的に学ぶ教師の育成～授業リフレクションを取り入れた校内研究を通して～ (沖縄県)
 - 基学校支援事業 放課後ミニ研修～放課後の短い時間でつながる研修～ (愛媛県)
- 分科会B
 - 校内研修リーダーを育成する拡散型教員研修プログラムの実践～学習者主体の教科書・デジタル教科書活用の研修を中心～ (新潟県)
 - 「対話」から広がる新たな教師の学びの姿の実現に向けて～センター所員会の変革からのスタート～ (長野県)

■ 令和 7 年度岩手県教育研究所連盟研修会 ■

〔目的〕児童生徒が「生きた知識」を習得するための教育方法と、思考プロセスに基づいたつまづきの把握及び授業改善について研修し、学力向上の推進を図る。

〔日時〕令和 7 年 9 月 19 日（金）9:30～11:45

〔演題〕児童生徒が「生きた知識」を得るための教育

～子どもの思考と学びのプロセスの科学的根拠に則ったカリキュラムと授業づくり～

〔講師〕一般社団法人 今井むつみ教育研究所 所長 今井 むつみ 氏

本研修会では、認知科学・発達心理学の視点から、児童生徒の「生きた知識」と「死んだ知識」の違い、そしてそれらが学力調査や日常の授業にどのように現れるかについて、今井むつみ先生に御講演いただきました。講演は、研究成果と具体的な事例を交えた内容で構成され、対面とオンラインを合わせて 161 名が参加しました。講演後にはオンデマンド配信を行い、学びの機会を広く共有しました。

（1）「生きた知識」とは何か

今井先生は冒頭、「生きた知識は人に作ってもらうことはできない」と述べ、知識は自らの体験や思考を通じて構築されるものであることを強調されました。全国学力学習状況調査の事例とともに、児童生徒が表面的な計算はできても意味理解が伴っていない現状が紹介されました。例えば「10%増量されたハンドソープの量は増量前の何倍か」という問題で「0.1 倍」「10 倍」と答える子どもが多い背景には、自分で意味を考えて補って式を立てる力が育っていないことがあると説明されました。



（2）記号接地とプレイフル・ラーニング

講演の中盤では、認知科学の概念「記号接地」が紹介されました。これは、言葉や記号が身体的な経験や感覚と結びつくことで、意味を持つようになるという理論です。今井先生は「遊びが記号接地を助ける」と述べ、体験を通じて概念が身体に結びつくことの重要性を説明されました。具体例として、単位の理解を促すカードゲームや、2倍・半分の関係を体感する「ダブルスの魔法」など、遊びを通じて記号接地を促す実践例が紹介されました。こうした活動は、子どもたちが「不思議だな」と感じることから始まり、その興味が理解を深める第一歩になると説明されました。

先生方は子どもたちの現状を正しく理解していますか？
児童生徒の学びは「死んだ知識」を貯めるだけになってしまいませんか？

プレイフル・ラーニングと記号接地

遊びが記号接地を助け、生きた知識をつくる

家庭科・音楽・図工・技術・体育などの教科から抽象的な概念の接地を助け、算数・数学や科学の生きた知識の基盤をつくることを助ける

（3）教科横断的な学びと教育実践への示唆

質疑応答では、参加者から「現場で子どもたちに抽象的な概念を身体化させるにはどうすればよいか」という質問がありました。今井先生は「自分の教科だけで閉じず、他の教科との連携が大事」と述べ、さらに「抽象的な概念を学ぶときには、一つの見方だけではなく、多角的な見方、アングルからその概念に触れることが重要」と説明されました。その例として、「バスケットボールのシュートを定点からばかり練習しても、位置が少しずれると成功しない。学びも同じで、ある決まった見方だけで教えると、応用が効かなくなる」と、例えを交えて話されました。

参加者からは「『生きた知識は人に作ってもらうことはできない』という言葉が心に残った」「プレイフル・ラーニングの実践例が具体的で、授業に取り入れたい」「今井先生の講演は、教育の本質に迫る内容であり、現場の授業改善に直結する示唆が多かった」といった声が寄せられました。

本研修会は、認知科学の理論を授業づくりに活かすための貴重な機会となりました。参加者の高い満足度と授業改善への意欲は、今後の授業づくりや子どもたちの学びの質の向上につながっていくことが期待されます。



■ 令和 7 年度（第 69 回）岩手県教育研究発表会 ■

令和 8 年 2 月 4 日（水）から 2 月 6 日（金）まで、岩手県教育研究発表会を開催いたします。本年度は対面形式で実施し、開会行事及び講演はリアルタイム配信、2 月 12 日（木）から 3 月 5 日（木）まではオンデマンド視聴も可能です。全体テーマは「夢の実現に向けて自ら学び行動する岩手の子ども—指導と評価の一体化で育成する確かな学力—」とし、講演のほか、教科・領域等に関する分科会を設け、実践的な研究成果の発表を行います。多くの皆様の御参加を心よりお待ちしております。

■ 2 月 4 日（水） 岩手県立総合教育センター 岩手県立生涯学習センター

【分科会】<対面>

国語 社会／地理歴史・公民 算数／数学 理科 体育／保健体育 外国語活動／外国語
特別活動／キャリア教育

■ 2 月 5 日（木） 岩手県立総合教育センター 岩手県立生涯学習推進センター

【講演】<対面及びリアルタイム・オンライン>

演題：次期学習指導要領の動向とデジタル学習基盤

講師：東京学芸大学 教職大学院 教授 堀田 龍也 氏

【特設分科会】<対面>

1 学力向上 2 人権教育 3 教育の情報化 4 地域クラブへの移行と学校の在り方

■ 2 月 6 日（金） 岩手県立総合教育センター 岩手県立生涯学習推進センター

【分科会】<対面>

音楽 図画工作／美術 家庭／技術・家庭 幼児教育／幼小接続 教育相談 特別支援教育
複式指導／小中連携 道徳／カリキュラム・マネジメント
いわての復興教育「いきる・かかわる・そなえる」 教育課程一般

■ 2 月 4 日（水）～2 月 6 日（金）企画展

学校紹介写真展<会場展示・Webページ掲載> 学生科学賞入賞作品展・理科教材展<会場展示>

教材展〔特別支援教育〕<オンライン> 学校公開資料展<Webページ掲載>

教職大学院展<オンライン>

※教職大学院展の配信期間は 2 月 24 日（火）～3 月 5 日（木）

■ 2 月 12 日（木）～3 月 5 日（木）<オンライン配信期間>

開会行事、講演、分科会、特設分科会 ※一部分科会を除く

- ・対面（参加者が会場に集合する）
- ・リアルタイム・オンライン（参加者が YouTube の同時配信を視聴する）
- ・オンライン（参加者が YouTube で随時視聴する）

※開催要項及び参加申込方法の詳細は、[総合教育センターWeb ページ（「教育研究発表会」のページ）](#)に掲載しております。

総合教育センターをご活用ください

総合教育センターでは、要請研修、随時研修、どようび研修など様々なニーズに対応しています。詳細については各担当までお問い合わせください。

■ 企画担当 0198-27-2833

教育図書・資料の収集・提供、いわての復興教育に関する内容

■ 教科領域教育担当 0198-27-2735

幼児教育から小学校・中学校・高等学校の教科・領域等の指導に関する内容

■ 理科教育担当 0198-27-2742

小学校・中学校・高等学校の理科の指導に関する内容

■ 情報・産業教育担当 0198-27-2254

情報教育、視聴覚教育、技術・家庭科、高校専門教育に関する内容

■ 教育支援相談担当 0198-27-2821

幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における個別又は集団の教育支援に関する内容

[センターWeb ページ](#)では、教育研究、学習指導案、研修講座関連資料等各種教育情報を提供しています。

☞下線のある箇所をクリックすると、Web ページに接続できます。